

令和7年度 自己評価書

学校名	和歌山市立松江小学校
校長氏名	川野 一郎
作成日	令和8年2月21日

1 教育目標

「よく感じ、よく考え、よく行う」子どもを育てる

2 本年度の取組についての評価

	確かな学力の向上	豊かな心の育成	健やかな体の育成	地域とともにある学校
指標	○全国学力学習状況調査、県学習到達度調査で、県平均を上回る ○勉強がわかる85%	○道徳の授業が楽しい90% ○学校が楽しい95% ○いじめの解消100%	○朝ごはんの摂取率100% ○体育が楽しい80%	○家庭・地域との連携(保護者90%) ○学校の情報がよく伝わった(保護者80%)
重点目標	◎基礎基本の確かな定着 ◎自ら考える深い学びの推進 ○自主学習の定着 ○読書活動の推進	◎道徳・人権教育の充実 ◎いじめの早期発見・組織対応 ○仲間づくりの充実 ○挨拶運動の推進	◎体力向上の推進 ○早寝、早起き、朝ご飯 運動の推進 ○体育学習の充実	◎学校情報の積極的な発信 ◎地域の資源の積極的な活用 ○地域の歴史学習の推進
取組の状況	○全担任が、道徳の研究授業を行うことができた。 ○考えを伝える力をつけるため、ペア・グループで話し合いを取り入れている。 ○どの学級でも自主勉ノートにより、自主学習を行っている。特に朝読書にも力を入れている。	○全担任が道徳の研究授業を行うことができた。 ○いじめの早期発見に努めた結果、早期に解決できることがほとんどであった。 ○個人の意見を尊重しつつ、休憩時間でも集団遊びを行うことに力を入れた。 ○児童会がすすんで朝の挨拶運動(火・金)に取り組んだ。	○朝ごはんの摂取率は、学校全体で概ね100%を達成できた。 ○なわとび、持久走、バスケットボール、陸上競技等で体を動かす機会をできる限り持たせた。	○本年度も、「家庭科応援団」(高学年)、「昔遊び体験」(1年生)等、地域の方の協力を得た。 ○特に6年生は総合的な学習の時間で地域と連携を実施し、より深く学ぶことができた。
取組の成果と課題(評価結果)	○基礎的な学力が身についた(保護者82%) ○児童は、勉強が分かる(低学年約80%、中高学年82%) 上記、いずれも昨年度と同等。 ○県平均を上回ることはできていないが、改善の兆しはある。	○いじめの取り組みが分からないと感じている保護者が約18%いるので、いじめ解消に向けた取り組みを今以上に知らせる必要がある。また「分からない」が意味するところを考える必要がある。 ○友達と仲良くする、は95%を超えているが、学校が楽しい、は95%を下回っているため、楽しめていないと感じている子がいることは課題	○早寝・早起き・朝ごはんを推奨している。児童は、ほぼ8時までに登校できているので、基本的な生活は確立している。一部生活習慣に課題も見られる。 ○体育が楽しい(やや楽しいを含む)は、9割を超えている(男子が97.1%、女子が94.1%)。	○家庭・地域との連携(保護者90%弱)を感じている保護者が多く、概ね目標が達成できた。 ○学校・PTAともに地域との連携協力で力を入れてきた。 ○学校の情報がよく伝わったが80%以上を達成できた。
改善方法(次年度に向けて)	○低学年から基礎基本の定着に努め、自分の思いや考えを伝える機会を増やし、より「わかる」授業づくりを行う。 ○学校全体で、自主学習を一層充実させるよう取り組む。読書活動もさらに推進していく。	○いじめアンケート実施後の取り組み等、保護者への密な連絡を実施し、解消100%を目指す。 ○一層学校が楽しくなるよう、学校生活の充実を図る取り組みを増やし、学校に來にくい児童の早期発見・早期対応に努める。	○朝ごはんの摂取率を100%にするために、各家庭への啓発を今後も進める。 ○外で元気に遊ぶように努めたり、課外活動を推進したりする等の活動を推進していく。	○地域をよく知る児童を育成するため、地域と積極的に交流し、自分も地域の一員であるという意識を作りたい。 ○LINEスクール連絡帳などのICTツールを活用して、情報発信の仕方を工夫していく。

3 その他の課題

不登校児童や公的機関にサポートされている家庭が多くなってきているが、不登校児童生徒支援員やSC、SSW等との連携により改善しつつある。地域の見守りは非常に心強く、これまで以上に他機関との連携が必要であると考えている。
--